

# 背もたれの角度調整用金具『ラチェットギア』を開発 世界30ヶ国以上で“快適を届ける名脇役”に 向陽技研 株式会社



本社外観(堺市)



## 向陽技研 株式会社

代表取締役社長：山下 雅伸 氏

本社：堺市西区草部1214

創業：1926年（昭和元年）

従業員数：本社 85名

ベトナム 250名

中国 30名

ドイツ 4名

事業内容：家具金具（ギヤ、回転盤、昇降、ソファ、ベッド用等）製造および販売

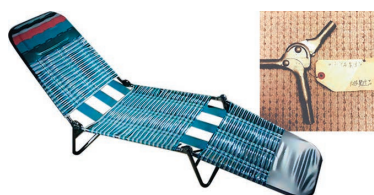
URL：http://www.koyoeng.co.jp

1926年創業の向陽技研株式会社は、ソファや座椅子のリクライニング部分に使われる「ラチェットギア」と呼ばれる角度調整金具をはじめ、家具の金具部品を製造・販売しています。売上高に占める海外の割合は約8割と活躍の場を広げ、国際社会に貢献するグローバル企業として成長されています。今回は代表取締役社長の山下雅伸氏に創業からの事業の変遷についてお話を伺いました。

### 一 下請から自社で商品開発する メーカーに転換

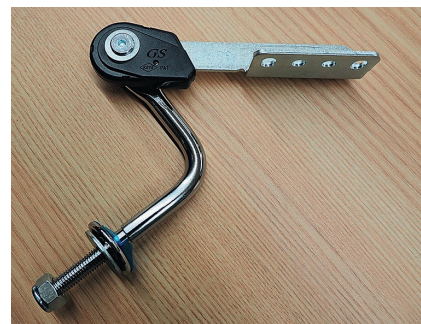
1926年に、私の祖父である山下義一が堺の錦綾町で山下製作所を創業しました。当初は農機具部品や園芸用スコップを製造していましたが、1944年に空襲で工場が全焼。工場跡地の3分の2を売却しましたが、残りの敷地で自転車部品や堺の地場産業の下請けに携わるようになりました。

先代である父、現会長の山下善伸は祖父と一緒に仕事をするようになり、下請的な仕事ではなく、自社で生産販売できる商品を作りたいという強い思いを持って商品開発に励みました。欧州から輸入された、折り畳み式サマーベッドのラチェットギアの商品開発に成功し、その後改良を経て当時の主力商品となりました。



サマーベッドとラチェットギア

開発したラチェットギアは座椅子用の角度調整金具へ発展し、現在では座椅子だけでなく、ソファや介護、医療、オフィス業界向けに独自のパーツを製造するメーカーとなりました。



最新のラチェットギア  
無音で無段階の角度調整が可能

### 一 海外進出の開始

2003年に現会長から引継ぎ、私が社長となりました。それまでの国内販売に加え、東南アジアの展示会にも出展し、海外への販路拡大へ注力していきました。

1990年代後半頃は円高が続いていて、東南アジアでは日本への家具輸出が盛んになっていました。そのような東南アジアの家具メーカーに対し、信頼性を武器に、当社は販売を強化していきました。

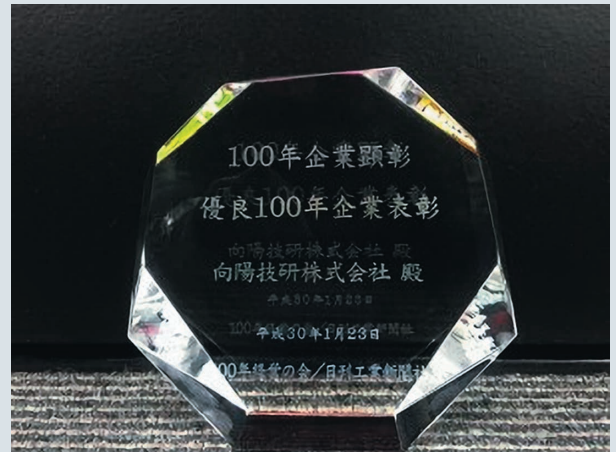
東南アジアでの販売が伸びていくなか、2006年、中国に組立工場を設立しました。同工場は販売機能も持たせ、中国国内の市場開拓にも注力していきました。今日では売上の80%が海外向けになっており、そのうち中国・欧州での販売が各40%、その他地域が約20%を占めるまでになっています。

## 信頼関係の醸成に向けて

当社は人間性重視の人材教育が重要と考えています。その一環として、

- ①高野山の寺院で精神力を高める講習
- ②白浜で社員のコミュニケーション力を養うグループワーク合宿
- ③感動推進委員会の実施を行っています。

感動推進委員会というのは、月に1回全社会議を行い、毎月のテーマを決めて、そのテーマに基づいて、一番投票数が多い人を表彰しています。テーマ自身は非常に基本的なことで、会社全体の社風を高めていくという目的と、目立たないけれども陰でコツコツ頑張っている人にスポットライトをあてようとしています。いずれも15年以上続いています。



創業100年を超える優良企業として受賞  
日刊工業新聞社主催（近畿経済産業局後援）

### —ドイツに販売会社を設立

中国市場の開拓と並行して、欧州向けの市場開拓にも注力していきました。ソファや家具というのは、ドイツ・イタリアで新たなデザインやトレンドが産み出されます。高級家具ブランドがあるドイツ・イタリア市場で認知していただければじめてグローバルブランドとなります。

日本や中国からヨーロッパへ商品を運ぶと船便で2ヶ月かかります。現地で販売する体制を構築していくべきであろうと2013年にドイツで販売会社を設立し、お客様の要望に即応できる体制を作りました。

### —ベトナムに自社工場を設立

中国の工場が手狭になり、2018年にベトナムのハノイで土地を確保して本格的な自社工場を作りました。昨今の状況を予測したわけではないのですが、中国のカントリーリスクの増大を勘案すれば、非常にいいタイミングでベトナムに拠点を設けることができました。



ベトナム工場

### —『Heart & Technology』

#### 経営理念に込められた思い

当社は『Heart & Technology』を経営理念としています。

**Heart**はものづくりに対する姿勢を表しています。精神性を高め、人間的な魅力を磨くことで気配りが行き届いた、日本らしいものづくりが出来ると考えています。

**Technology**は新しい技術の研究を怠らず、さまざまな分野へと挑戦する姿勢を表しています。社会や時代の変化を敏感に察知し、変化に合わせて研究技術を応用する。新たな製品開発によってさらなる需要を生み出す努力を日々行っています。

会社も人間と同じようにいろんな性格・社風の会社があります。社風というのは、特に中小企業の場合はトップの見方・考え方で決まる場合が多いと思います。そういう中で当社では、基本的な事を非常に大事にしたいと考えています。挨拶、礼儀、思いやり、掃除などの人間としての基本をみんなで大事にしています。そういうことが出来た上で、社員それぞれの専門性が生きてきます。

最近の世の中では成果や結果のみを求める傾向が強いと感じていますが、だからこそ我々は精神性の部分を大事にしていきたいと考えています。



展示会でのブース

KOYOの菱形のブランドマークは現会長が作りました。ブランドマークだけでなく、会長のものづくりのこだわり、品質管理へのこだわりは今も継承しています。ソファ座椅子の金具というのは、1つのアイテムで10万20万という量を作る商品もあります。商品に問題があった場合、我々からすると10万分の1、20万分の1という発生率ですが、商品を購入されたお客様からすると1分の1となりますので、1つの不良品も出さないよう品質にこだわって生産を行っています。

お陰様で2014年、経済産業省よりグローバルニッチトップ企業100選に選定いただきました。

これからも市場の変化に柔軟に対応し、多様化するニーズに応えるため、**Heart & Technology**をベースにたゆまぬ努力を継続してまいります。

— 貴重なお話をいただき、  
誠にありがとうございました。